



- 1 -

昆虫とかハ虫類の行動は、ほとんどすべてが生まれつきの本能によって規定されています。彼らは親から特に何も教えられません。しかし立派に巣をつくり、物を食べ、また子孫をつくっています。動物も高級になると、例えば盲導犬や警察犬のように、訓練することによっていろいろなことを教え込んでいくことができます。

人間には、生得的な本能といわれるものはごくわずかしかなりません。後天的に身につけたものがほとんどです。その中には犬がものを教えられるときのように、これをしてはいけません、このようにしなさいと「直接」いわれて習得していくものもありますが、「間接」に習得したものもたくさんあります。例えば、兄がしかられてい

見て覚えるもの

るのを弟が見て、あんなことをしてはいけないのだと理解し、それをしないようにするのが典型的な例です。観察学習といわれるものです。

子供は家庭の中で、親のやることをいつも見ています。幼児期には、ほかの世界のことは知りません。家庭のだけが生活の場で、親との関係はきわめて密接です。親のやることのひとつひとつが、子供のお手本になります。

とし 武俊

ま 摩 詫

立大 立大 立大
都立 都立 都立
京大 京大 京大
教授 教授 教授

見方にしても、子供は親のやることに疑問を持つことも、批判をすることもなく受け入れていきます。父親の母親に対する態度、母親の父親に対する態度についても同じです。

言葉遣いなどは、観察によって身につけることの最も大きなものでしょう。うるさい、あつちにいけというような、強く断定的な言いかたばかりしている親のもとから、豊かな語彙と柔

軟な思考力を持った子供が育つことは稀だと思えます。対人関係において示される思いやり、誠実さも親の態度から覚えていることが多いのが特徴です。

何を好み、何を嫌うか、どんなことを喜ぶかなど、日常生活のさまざまなことにいたるまで親を見て覚えていきます。

といっても、すべてがこのようにして得られるものではありません。成長するにつれて、自分自身を顧みて直していくこともたくさんあります。しかし幼いときに見た親の印象は強く、子供のパーソナリティ(性格)の基礎になっていくのです。



今月号から新シリーズとして開始する「父と子」——家庭内での父親の役割、親子のコミュニケーションの問題など、参考になる点が多くあると思います。御愛読ください。

歌壇



萩原 信一

雪雲が陽をさえぎれば南天の朱実の色も暗み帯びきぬ

佐瀬 初音

昏れゆける猪苗代湖の水の面に つどへる鴨のおぼろとなりぬ

斉藤 幸子

救急車の回転灯が照らしたず 眼閉じたる父のみ顔を

吉岡 信子

ニュージージラントの旅終へ帰る機 上にて夫はや次のプランを語る

宇井 勇

角店の青果の老舗も遂に閉す 大型店のあひつぐ進出

海保 きみ

木枯らしに背押されつつゆく吾を 追ひこしてゆく枯葉いくひら

斉藤 要

数知れぬ戦友うしなひし日はるか 小富士航空隊跡に今たつ

那須 清江

風花の舞ふを幼は首かしげ 手をさしのべぬ空に向ひて

掛川 友代

捨て猫の鳴きて寝がたき霜の夜 思ひは至る嫁がざる娘に

向後 泰治

錦鯉泳げるままに池水を 染めつつゆけりまぶしきまでに

鈴木 サツ

機械化は進みゆくのみ農道を トラックター飛ばし青年のゆく

北田 ふじ

落花生むきるし腰をのびしたつ 眼先に白く梅は咲きぬき

秋葉 とく

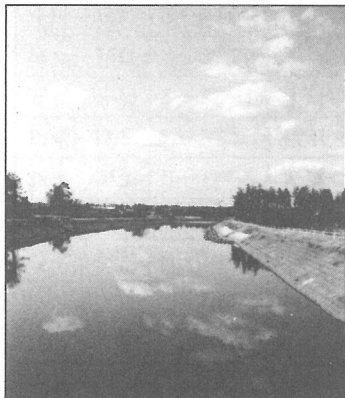
夫征きて還らぬ後をほそ腕に 家支えきぬ想ひは深し

(選者) 斉藤つね子

岬山にあまれる大き二重虹 みずみずとのぶ朝洋の上に

4月

河川美化月間



きれいな川は 人も魚も うるおします